

ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局
VOL 49 平成 19 年 4 月



「真誠会医療福祉連携センター」の開設 — 新しい連携の形をめざして —

平成 19 年 4 月 1 日、真誠会セントラルクリニック内に真誠会医療福祉連携センターを開設しました。

連携センター長として、真誠会セントラルクリニック看護師長 井澤美恵子、副センター長は 3 月一杯まで美保地域包括支援センター主任でケアマネージャーをしていた小山雅美が就任しました。

井澤センター長は、真誠会セントラルクリニックの看護師長と兼任で、小山副センター長は専任です。

今回の連携センターの特長は、

- 1) 井澤センター長、小山副センター長が 24 時間携帯電話で責任をもって対応を行います。
- 2) 医療福祉連携センターは、真誠会セントラルクリニック、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、グループホーム、ケアハウスその他 9 箇所の通所（うち 4 箇所は認知症対応型）の合計 25 事業所すべてを統一した相談窓口になります。

真誠会には現在、上記のように多数の事業所があり、真誠会のスタッフでさえ、どこにどのような施設があるのか、またその施設はどのような機能があるのかわかり兼ねることさえあります。

ましてや、大学病院をはじめ米子市内の病院や介護保険関連施設、居宅事業所の関係者や患者さん、利用者の皆様にとって、真誠会の 25 事業所の場所と機能などがわかりにくく、真誠会のどこの誰に電話をしてよいのか迷われることが多かったと思います。

今回の連携センターは、総合的な受け入れの電話を井澤センター長と、小山副センター長が携帯電話で対応できるようにしたことにより、この二人のどちらかに連絡をいただければ、真誠会のすべての事業所で、最適な事業所をお勧めできるシステムが確立しました。

この連携センターの便利な機能を皆さんに理解していただき、実際に利用していただくようになれば、後方支援の場所を探されている病院関係者の皆様にとって、ストレスが減り、連携が円滑に行くと思っております。

また、この連携センターが単に真誠会グループの中で最適な場所をお勧めするという機能だけではなく、場合によっては真誠会グループ以外の医療福祉施設を含めてその患者さん、利用者さんに最適な場所を探す支援機能も合わせて持つようにして行きたいと思っております。



医療法人 真誠会
社会福祉法人 真誠会
理事長 小田 貢

「新老人の会」鳥取支部 拡大フォーラム開催される



平成 19 年 4 月 10 日(火)、「新老人の会」鳥取支部が主催で、倉吉社会福祉協議会が共催の「新老人の会」鳥取支部拡大フォーラムが開催されました。

日野原先生は前日に米子へ到着され、米子全日空ホテルに宿泊されました。そしてその夜は、全日空ホテルにて NPO 法人がいなネットのテレビインタビュー取材を約 30 分受けていただきました。

翌 4 月 10 日朝ホテルを出発し、米子ホスピタウンへお寄りになりました。ゆうとぴあ広場で職員から歓迎と、日本ユニセフ協会大使就任のお祝いを申しあげました。その後、講演会場である倉吉市の倉吉未来中心へ向かわれました。



倉吉未来中心のセミナールームでは、「日野原重明先生を囲む会」と題して「新老人の会」鳥取支部会員の皆さんとの会食会が開かれました。



午後 1 時より開演となり、倉吉未来中心の大ホールは約 1500 席を満席にする聴衆で埋まりました。そんな中、日野原先生は 95 歳の年齢を感じさせないエネルギッシュな講演で「生き方の選択—モデルになる人との上手な出会い—」についてお話をされました。

講演の最後のフィナーレでは定番の「ふるさと」を日野原先生の指揮で、ステージと客席の全員で合唱し、閉会となりました。

講演後は、日野原先生の書籍販売があり、日野原先生のサイン会が行われました。サイン会は、長蛇の列となり約 100 人ぐらいの皆さんへ黙々とサインをされました。また、日野原先生の「日めくりカレンダー」を急遽 100 冊用意しましたが、あっという間に完売となりました。



会場から出て行かれる皆さんの表情は、日野原先生の講演を聴いて元気付けられたように誰もが明るく、前向きな表情になっていました。

今更ながらに、日野原先生の精神的影響力の強さに驚きを感じました。

「真誠会医療福祉連携センター」(通称:真誠会連携センター)が開設しました!!

平成 19 年 4 月 1 日より、「真誠会医療福祉連携センター」が開設しました。この真誠会医療福祉連携センターは、もちろん一般の方も利用できますが、主には総合病院、救急病院からの患者さんの受け入れを円滑にし、真誠会の医療福祉施設が病院の後方支援施設としての機能を高めるために設置されたものです。

開設する場所は、真誠会セントラルクリニック内です。センター長として真誠会セントラルクリニック看護師長井澤美恵子、副センター長は 3 月一杯まで包括支援センター主任ケアマネージャーとして勤務していた小山雅美が就任しました。



中 小田理事長
右から 2 番目 井澤センター長
左から 2 番目 小山副センター長
一 番 左 小田専務
一 番 右 森本看護介護統括部長

今回の連携センターの特長は、

- 1) 24 時間携帯電話で井澤、小山が責任をもって対応致します。
- 2) 医療法人、社会福祉法人では医療から介護保険関連の多種多様な事業が、そして地域的にも米子市内から米子市北部まで広く分布しています。それらの事に関する事前の知識がなくても、センター長または副センター長にご相談いただければ、その患者さんに最適な場所を提供して、その後も真誠会が責任をもって、引き続き経時的に最適な施設(真誠会グループ以外の施設も含めて)を紹介するというシステムです。
そして、医療が必要な事例に関しては井澤センター長に、介護保険が主体の場合には小山副センター長が主となって受けることになっております。センター長と、副センター長は常に情報を共有しているので、どちらに連絡をされても結構です。
- 3) 従来の各施設ごとの、相談員を通しての受付も従来通りお受けしております。

今回の真誠会連携センター方式が、大学病院をはじめ、総合病院からの患者さんの流れを円滑にして、米子地域ひいては広く鳥取県西部地域における医療機関の後方支援グループとして円滑に機能し、大学病院、その他の病院が本来の機能が十分に発揮できるようになりますことを願っております。

【連絡先】

センター長 井澤美恵子 (医療関係: 080-6310-5666)
副センター長 小山 雅美 (介護関係: 080-6320-9087)
理事長 小田 貢 (0859-29-0099)

就 ● 任 ● 挨 ● 拶



医療法人 真誠会
社会福祉法人 真誠会
事務部長 近藤 光
(本部)

寒暖が競う風光る時季に、理想郷の船に乗船致しました。
私の体験から医療福祉の基本は、利用者並びに患者さんとの素晴らしい人間関係の構築と地域との連携、協調精神溢れる職場環境の中から優れた医療・看護・介護サービス精神は培われる事を学びました。
また、その精神は日常生活の中で実現されてこそ自分の糧ともなります。
「青春とは時にあらず心ざまなり、理想を失うとき初めて老いる」私の好きな詩の一説です。年齢ではなく理想を持ち続けることが青春であり、まさしく「生涯青春」であります。皆様方とともに、安心して暮らせる街づくりを目指して、真誠会理念の実現に向けて謙虚に自己研鑽して参りたいと思います。
今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

けんこう倶楽部

真誠会けんこう倶楽部は、本年 4 月で開始してから満一年になります。会員数は米子ホスピタウン 56 名、弓浜ホスピタウン 36 名（平成 19 年 3 月）です。

日曜祝祭日を除き、毎日行っています。午前 8 時過ぎから 10 時ぐらいまで、たくさんの会員の方が集中する時間帯ですが、皆さん熱心に運動をしておられます。けんこう倶楽部の会員の皆さんの声としては、「元気になった」「体力がついた」「健康に自信がついた」「血圧が下がった」「糖尿病の状態がよくなった」「腰痛が治った」などの感想をいただいています。運動を始めて、効果が非常にはっきりと出る方も多くおられます。

また、2 月からは、エアロビクスのインストラクターの宮脇留美子が勤務になりました。今までのトレーニングマシーンを使った運動に加え、エアロビクス、ストレッチが新しくメニューに加わりました。運動メニューが豊富になったことで、より一層、楽しく運動ができると、喜んでいただいています。そして、4 月から以前勤めていた理学療法士も真誠会に復帰しましたので、新入スタッフとともに指導の体制が充実しました。



みんなでエアロビ
1.2 ♪ 1.2 ♪

- 会 費 制 / 1 ヵ月 4,200 円税込
3 ヶ月一括 12,000 円税込
半年一括 21,000 円税込
- 場 所 / 河崎：ゆうとぴあ広場
大崎：弓浜ホスピタウン 2000 年ホール
- ご利用時間 / 河崎：8 時～10 時半・15 時～18 時
大崎：9 時～10 時半・15 時～18 時
- ☆ 時間内であれば好きなときにご利用できます。
- お問い合わせ・お申込は
河崎：支援本部受付 (☎24-5666)
大崎：弓浜支援部受付 (☎48-2331) まで

information

けんこう倶楽部の 増 築

けんこう倶楽部は、会員数が増加してきましたので、米子ホスピタウンの中庭に屋根をつけて広くすることになりました。広くなる部分は、約 50 坪の広さがありますので、利用者の皆さんにゆったりと運動していただけるようになると思います。

工事は 5 月中に開始して、7 月中には使用できるようになると思いますので楽しみにしてください (^o^)/

「生活習慣病予防を考える会」より

真誠会セントラルクリニック 健康教室のお知らせ

皆さん、こんにちは。

真誠会セントラルクリニックでは、以前より糖尿病教室・痩身教室を行っていましたが、昨年末、院長先生を始めとして、看護師、臨床検査技師で、「生活習慣病予防を考える会」を発足しました。

糖尿病・脳卒中・心臓病・高脂血症・高血圧・肥満からなる生活習慣病は、毎日のライフスタイルが大きく関係します。検診や人間ドックにこられる方を見ていると、若くして生活習慣病の方に多く遭遇します。生命の危機に関わりのある生活習慣病を防ぐには、また、健康なままで老後を過ごしていただくには、予防方法を皆様に知っていただきたいと考えました。

生活習慣病はそれぞれが独立した別の病気ではなく、肥満（特に、内臓に脂肪が蓄積された状態）が原因であることが分かりました。内臓脂肪型肥満によって、さまざまな病気が引き起こされやすくなった状態の事を「メタボリック症候群」と言います。

今年は、メタボリック症候群を通して皆様と生活習慣病予防について一緒に考え・学びたいと思います。

毎日、忙しく過ごされている皆さんに、もう少し御自分の健康に目を向けていただけるよう、生活習慣に関心を向けてもらえるきっかけとなればと思います。

メタボリック症候群第一回目の教室は 2 月に開催され、小田院長講演がありました。

今後の予定は、以下のとおりです。

6 月	グループワークと梅木先生のお話。
10 月	バイキングを通しての食事療法。
12 月	一年のまとめのグループワークと院長先生のお話。

皆さん、よろしければ一緒に参加されませんか？ お待ちしております。

担当：真誠会セントラルクリニック外来 看護師 青戸





辻田耳鼻咽喉科



辻田耳鼻咽喉科
院長 辻田 哲朗

女性は強い！ 母はもっと強い！

最近かなり頻繁に外国人の女性、主にフィリピンや中国の人たちですが、それらの人たちが患者さんになって、あるいは子どもを連れて医院に来られるのが目立ってきました。中にはちょっと見ただけでは日本人とまったく区別がつかない人もおられます。彼女らは、そうほとんどすべてが女性です。10年前まではそれでもほんの時々しか見なかったのですが、最近はそれほど珍しくはなくなってきました。

彼女らが日本に来た理由は様々だと思えます。でもたとえそれがどういう理由であれ、自分の生まれ育った祖国を後にして言葉も文化も何もかも違う、そして、知り合いもいない日本という他国に来た、その勇気には敬服してしまいます。おそらくこれは男性じゃなくて女性だったからできたのではと一人思っています。男にはそんな勇気はありませんし、行動力もありません。その代わり、メンツだけは女性よりはるかにあります。ボク自身のことですが、もう30年以上も前、九州の高校を出て一人で鳥取大学に受験に来たときとても不安だったのを思い出します。その時は九州弁がまったく通じず、さらにこっちの言葉もほとんど理解できず、カルチャーショックを受けたのを懐かしく思い出します。それに比べて彼女らの苦労はそれよりもはるかに大変だったと思えます。だからその柔軟な適応力には驚きです。

また、彼女らは医院にやって来る時は至って陽気です。でも本心の所はとても不安で一杯ではないでしょうか？誰でもそうですが、他国で一番困るのは病気になった時です。自分の病状をきちんと伝えることができるのか？相手はちゃんとわかってくれるのか？とても不安になります。たしかに彼女らは日本語が十分とは言えませんが、そのたどたどしい日本語で病状を精一杯訴えてきます。だから、たとえ言葉が足らなくても十分に理解できます。だから別に患者さんを差別しようとする気はありませんが、そういう人たちこそちゃんと聞いて、診てあげようと思ってしまいます。

余談ですが、今は花粉症の季節になっていて、中国やフィリピン出身の彼女らも立派に花粉症になって医院にやって来ます。たしか以前アメリカ人の人も花粉症になってやって来られたことがありました。花粉症は日本人だけの専売特許かとばかり思っていました。人種を問わずになるもんだなと変に納得してしまいました。それにしても、せっかく日本に来たのに花粉症になるなんていい迷惑ですね。

彼女らは日本で日本人と結婚して、そして母親になって、今度は子どもを連れて医院にやって来ます。その時はもう堂々とした母親となっています。しっかりと日本に根を下ろしています。彼女らはこれから、日本での子育てという難題に立ち向かって行かなければなりません。その陽気さと楽観性で自分の人生を自ら切り開いて行くのではないのでしょうか。

まったく、女は強い！そして母はもっと強い！



いえはら歯科



いえはら歯科
院長 家原 猛

Shall we dance in? かぶりあ



去る3月10日(土)、11日(日)の両日、米子駅前サティ4F 米子市男女共同参画センター「かぶりあ」で開催された「かぶりあ祭」に参加しました。フィナーレのアトラクションとしてNPO法人ひまわり倶楽部のみんなと演奏をするためで、これまでもサポートメンバーとして、他のイベントでも協力させて頂いています。当日は平成18年度米子市文化奨励賞を受賞されたゴスペル・オーブの応援も頂いて「翼をください」「世界にひとつだけの花」と、オリジナル曲の「綿になりたい」の3曲を演奏しました。(担当はパーカッション、今はカホンを中心にいろいろ、少し遅い40の手習いがはまりにはまって中毒とも言える状態。でも、最近はいくらか冷静さを取り戻しつつあります。)こ

ういう機会でもないと、なかなか「かぶりあ」に足は向かなかったかもしれません。情報としては当然知っており、気にはなっていたのですが。

貴重な体験ができたのは出番待ちの時間でした。初めての人もどうぞ、というダンス体験の企画でした。先生から指導して頂いたのは、「チャチャチャ」。なんせずぶずぶの素人、家内が若い頃競技ダンスをしていてその影響の好奇心だけの初心者、軽い気持ちのチャレンジ精神で参加しちゃいました。開いて・閉じて・開いて、ニューヨーク……足踏みか、麦踏みか、ステップか、ラジカセから流れる音楽に必死に耳を傾けながらの取り組みは、まさに手に汗握る状態でした。

最初にお相手して下さった方は、ほど良い年頃のきれいな女性でした。シャイな私はステップを習得することに忙殺されながら、手の汗の量を気にしていました。ステップ・ステップ・チャチャチャ。

時間はあっという間に過ぎていきました。そして、お相手を変えてということになりました。ステップの復習をしながら、目を前にやると、いつの間にかお相手は私より少し年配の小柄な女性になっていました。このサークルのメンバーさんでしょうか、ダンスシューズにフレアスカートをお召しでした。全くの初心者ということをお告げ、熱心にリードしていただきました。ステップ・ステップ・チャチャチャ。

そして、次のお相手は以前から存じ上げていた、美貌でも知られた女性、少しドキドキしながら、相変わらずお手本の女性のステップに視線と意識を集中していました。ステップ・ステップ・チャチャチャ。

その時です。やさしい声で「どこ見てるんですか?」……「お手本のステップ……」

あ!失礼なことしてました。パートナーへの配慮、欠けてました。二人でダンスを楽しむ気持ちが無かったなあ、と。せっかく恵まれたお相手とダンスができる状況だったのに。気恥ずかしさと実直さなのか、ステップを習得することに一所懸命過ぎたことを反省していました。一事が万事、自分の性格ってこうだなあ、と。大人に成りきれていない自分をつくづく感じました。

はじめての「かぶりあ」は、Shall we dance?の一期一会ではあるけれど「we」の心持ちを教えられた良い経験となりました。

ダンスにまではまったら、た・い・へ・ん。



中 下 医 院



団塊世代は ソリトン（孤立波）の如く 時代を駆け抜けます

中下医院
院長 中下 英之助

団塊世代の大量退職の時期が迫り、2007 年問題として社会現象化しています。しかも少子高齢化が進み、年金、医療費の財源不安が増加し、メディアによる団塊世代の功罪についての特集番組が繰り広げられています。団塊世代は好きな放題して後の世代に付けを残したり、子育てに失敗し、数が多いだけで突出した指導者や企業家などがいない、政治運動にかかわらない等の厳しい指摘もありますが、実際の番組構成をみると視聴率が目当てと思わせる、トークバトルが主体です。団塊世代は、第二次大戦の終戦をはさんで直前の極端に出生数が少ない状態から、急激に出生数が増加しており、その団塊の成り立ちに本質が潜んでいるように思います。

作家の堺屋太一が 1976 年に発表した小説『団塊の世代』において、鉱物学で堆積岩中に周囲と成分の異なる物質が、丸みをもった塊となっている状態を指す『団塊』を使用して名づけられた団塊世代は、1947 年から 1949 年にかけて誕生した出生数の突出した人口の塊で、単に数が多いだけでなく、独自性のある集団で、将来にわたりわが国の社会経済に重大な影響を与えられようと思われました。この団塊世代は、幼い頃から学校はすし詰状態で戦後教育を経験し、青年期には、大学改革やベトナム反戦などの反体制運動を繰り広げたが、一方高度成長の担い手として大都市に就職して、核家族化を推進しました。同世代間の競争が激しく、自己主張が強く、強い競争心を有し、津波のような孤立波（ソリトン）となり、その動向は行き先々で波紋を巻き起こしており、今日大量退職の時期にあたり、社会問題視されています。



ソリトンの最初の観察は、1834 年夏に J.S. ラッセルがエジンバラ近郊の運河沿いに馬を走らせていて目撃しました。運河を走っていた船が急停止すると、船の舳先から波が起こり、それは速さと形をほとんど変えずに進んでいきました。ラッセルは 1~2 マイル追跡したが、この波は運河の曲がったところで見失いました。このようにいつまでも形をくずさずに進む安定な波のことをソリトン（孤立波）と呼びます。これは津波などに見られるように、別の波と衝突しても互いにすり抜けるように通過して、その前後で形が変わりません。まるで近寄ると反発し、離れると引力が働く粒子のようにふるまいます。マラソンにおける先頭集団のように、あるときは風除け、あるいはペースメーカーの役割を果たして互いに牽制しあい、一人が抜けようとしても、他の人もついてきて、集団はなかなか壊れません。この仕組みが、カリスマ指導者や企業家を生まない理由かもしれません。

団塊世代も還暦を迎え、人生の秋に入ります。ラッセルの観察では、ソリトンは運河の曲がり角で見失いました。誕生以来数々の世間の荒波に揉まれながら駆け抜けてきた団塊世代の終わりは、マラソンの終盤に集団がバラけるように、高齢化に伴う老化（寿命）により解消に向かいます。

私も昨年還暦を迎えました。学童期より一級下の学年から始まる津波のように押し寄せる団塊に飲み込まれないように疾走しましたが、大学入試にて一浪し、以後団塊世代の先頭集団の医師として現在に至りました。周囲を見ても引退や隠居の気配はなく 70 歳代に向けて、団塊の形を保ちながら進みそうな気配を感じます。



小規模多機能センター真誠会ふる里 (和田)

季節を感じながら「桜もちづくり」「つくし狩」



「つくし」がずりり
勢ぞろい!
春ですよ……

つくしの咲き放題!
摘むことに
夢中でした

ふる里では季節行事を大切にしています。3月お雛様飾りや「桜もちづくり」「つくし摘み」にもでかけました。暖かな日の午後、川辺にたくさんの「つくし」を見られて「あらあ、つくしがこんなにも……早く摘まんといけんね……」話しながら、夢中になって摘まれました。摘んだ「つくし」は早速ふる里に帰って、つくし煮や天ぷらに調理して召し上がっていただき、「美味しい!美味しい!」の舌鼓でした。

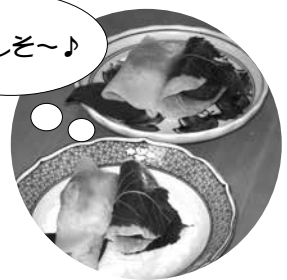


割ほう着姿がよく
似合います。「昔は
よく作ったよね」

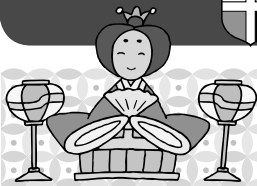
桜色の焼き上がり!
満足でした



おいそ〜♪



介護老人保健施設 米子ゆうとぴあ (河崎)



雛祭り誕生会

3月8日に米子ゆうとぴあ広場で、雛祭り誕生会が開催されました。地域の皆さまがボランティアで来てくださり、すてきな踊りとお歌を披露してくださいました。入所者の皆さまのお顔も、桃の花のようにポツ(*^o^*)とピンクに染まり、楽しいひとときを過ごすことができました♪



「東京の花売り娘♪」にお花を配っていただきました!



脳活性クラブ米子真誠会 童謡の里 (オルゴール館)



外部からの参加者もあり
にぎやかに開催して
おります

童謡の里では、毎週火曜日 14 時～14 時半まで、「童謡を歌う会」を開催しております。

毎週、皆さんと一緒に童謡を歌ったり、オルゴールを聴いたり楽しい一時を過ごしています♪ぜひ、一度のぞいてみて下さい(^o^)/



歌を歌いながらお得意な
お手玉の披露



スキンシップを加えた歌では笑顔が
より一層増します

オルゴールの
美しい音色に
心が癒されます



新任看護師長のごあいさつ



真誠会セントラルクリニック
看護師長 井澤美恵子
連携センター長

暖冬とは言え、寒の戻りはとても寒く身が引き締まる思いでした。

去る1月21日付けで、介護老人福祉施設ピースポートから真誠会セントラルクリニックに異動になりました。介護施設で御家族様の思いの深さ、重さ、ケアの繊細さ、そして人の生涯を見据えたマネジメントの必要性を学ばさせていただきましたので、少しでもこの学びを有効に活かしたいと考えています。

専門職として責任を持ち、職員と共に学び、内外の水平連携を常に考えた行動をとりたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。



介護福祉施設
ピースポート
看護師長代理 南悦子

ピースポートへ看護師長代理として異動となりました南と申します。ピースポートでは「その人らしさ」を大切に、今後もスタッフ一同入所様に安心して過して頂けるよう心がけて参ります。受持ちの意識を高めるため、いろいろな企画を計画しております。その際にはご家族様にご協力をお願いすると思っておりますのでよろしくお願い致します。

まだまだ若輩ではございますので、気兼ねなく声をかけてくださいませ。より良いケアを目指し頑張っております。



介護老人保健施設
ゆうとぴあ
看護師長 村上信子

昨年の4月に米子市内の病院より真誠会セントラルクリニックに赴任し、9ヶ月後の1月21日付けで介護老人保健施設ゆうとぴあへ配置換えとなりました。真誠会の動きの速さを肌で感じているこのごろです。医療の世界から介護の世界へ。長年の看護師生活ではじめての経験です。

89名の御利用者様、46名のスタッフに囲まれて日々色々な難題に直面しながら、2階と3階の階段を何往復もしながら働いています。日々出会う事一つ一つが新たな学習となっています。

今年度のゆうとぴあの目指すところは、在宅復帰への支援の強化です。そのためには固定チーム、担当受け持ち制の強化、質の良いサービス、ご利用者様個々のニーズにあった安全で、安心の介護の提供など、一人一人の入所者の方に入所から退所までしっかりとかわり、責任を持ってお世話させていただきます。一日でも早く在宅復帰がむかえられるように支援させていただきます。

地域に愛され、親しまれるゆうとぴあを目指し、施設長の佐藤先生を中心にスタッフ一同さらに力を合わせ努力して参りたいと思います。

どうぞよろしくお願い致します。



介護老人保健施設
弓浜ゆうとぴあ
副看護師長 西中右子

うらかな好季節を迎えました。

弓浜ゆうとぴあの副看護師長を拝命いたしました西中右子と申します。

右子と書いてあきこと読みますが、『右』には強い・正しいという意味があるそうです。若輩者の私ですが強く正しく、若さ(?)と笑顔と明るさで、ご利用者様が安心して楽しく過ごしていただけるよう精一杯頑張っています。

在宅介護・在宅看護という言葉が新聞やテレビでよく耳にする事が多くなりました。ご家族と慣れ親しんだご自宅で過ごされる事がいいことだとわかっていても、具体的にどうしたら実現できるのかと思っておられる方も多いと思います。

私たちは在宅復帰への関わりとして、リハビリやレクリエーションの充実、ご家族や多職種との連携を密にしていくことを課題とし、ご家族の状況に合わせた関わりが出来るよう努力しています。また、ご本人様の状態をきちんと把握し、適切なケアをさせていただく事は当然のこと、自立支援に向けたケアを常に考えていきたいと思っております。

至らない点もあるかと思いますが、皆様方からのご指導をいただきながらより良い弓浜ゆうとぴあを目指して、スタッフと力をあわせて参ります。

どうぞよろしくお願い致します。

地域包括支援センター
よりお知らせ

米子市 夜見、彦名、富益、和田、崎津、大篠津を担当いたします。

「弓浜地域包括支援センター」 になりました!!

平成 18 年 4 月介護保険法が改正されました。

このたびの見直しは高齢者が住み慣れた地域でその人らしい生活を継続できるように予防重視のケアシステム構築に重点がおかれ、その中核機関として地域包括支援センターが創設されました。

地域包括支援センターは 1 総合相談支援・権利擁護 2 包括的・継続的支援 3 介護予防マネジメントといった機能を担います。米子市では各中学校区に 1 ヲ所、それまでの在宅介護支援センターを運営していた法人が受託しました。

施行から 1 年が経過し、いくつかの課題が見えてきました。そのひとつとして担当圏域の高齢者数の不均衡がありました。現在米子市では 11 ヲ所のセンターがありますが、今後急速な高齢化社会の中で保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員といった専門職が限られた人員で住みやすい地域を作っていくためには、高齢者人口や地域性を考えた再編が必要となってきました。隣り合う美保・弓ヶ浜は弓浜ブロックとして以前からまとまりがあり、一つの圏域とすることでより効果的に情報交換、交流ができると考えられ 19 年 4 月から統合されることになりました。弓浜地域はいきいきサロンやボランティアなど住民活動が活発で今後ますますネットワークが充実していくことが期待されています。名称は「弓浜地域包括支援センター」となり、より身近な相談機関として地域の皆様とともに安心して住める町づくりを進めていきたいと思ひます。



左上側から 社会福祉士 小坂 一
保健師 専田 隆子
看護師 坂本真鈴美
左下側から 社会福祉士 陰山佳代子
主任介護支援専門員 安田博子
事務 木村留美子

花粉症は春だけじゃない!?

この季節、くしゃみ、鼻水などの花粉症に悩まされている方が多いと思ひます。

そのせいでイライラするなど精神的苦痛も伴うこともあります。自分だけで判断せずに、早めに医師の診察を受けるのも大切です。

地域によって多少異なりますが、春から夏にかけては木の花粉が、夏から秋にかけては草の花粉が飛びます。花粉には一年中悩まされるということですね……。



☆花粉予防のマメ知識☆

外出するとき、花粉を吸い込まないことが基本! 以下のことに注意しましょう (^o^)/

- 風の強い晴れた日は、花粉がたくさん飛んでいます! 外出を控えめに!
- プロテクター付のメガネやゴーグル、マスク、スカーフ、帽子を着用する!
恥ずかしいけど……これが一番効果的です。
- 服は、花粉が付きにくいスベスベした素材のものを選ぶ。毛羽立った服も避けましょう。
- 髪をコンパクトにまとめ、花粉が髪につかないように。
- 車の通風口に注意。花粉が入ってきてしまいます (>_<)
- 家に入る前は玄関先で、衣服や髪、持ち物についた花粉をはらいましょう。
- 帰ったら、手・顔・目・鼻を洗い、うがいをしましょう。目は、流水の中でパチパチまばたきをして洗うと効果的です。

医療福祉 ホスピタウンネットワーク



医療福祉のまち

米子ホスピタウン

- ・真誠会セントラルクリニック(医)29-0099
- ・透析施設オアシス(医)29-1997
- ・通所リハビリテーション真誠会(医)24-6030
- ・介護老人保健施設ゆうとぴあ(医)24-5666
- ・短期入所療養介護ゆうとぴあ(医)24-5666
- ・通所リハビリテーションゆうとぴあ(医)24-5666
- ・訪問看護ステーションネットケア(医)24-6777
- ・居宅介護支援事業所真誠会(医)48-0300

・脳活性クラブ米子真誠会(医)24-5984
 (童謡の里 オルゴール館)
 ホスピタウングループ本部 〒683-0852 米子市河崎581-3 TEL 24-5666



いえはら歯科

9:00~12:30/2:30~6:30 TEL29-6599



辻田耳鼻咽喉科

9:00~12:30/2:30~6:00 TEL29-1187



泌尿器科・皮膚科 中下医院

9:00~12:30/2:30~6:00 TEL24-1727



助け合いのまち

小規模多機能センター 真誠会ふる里

〒683-0102 米子市和田町1722番地 TEL 25-1112



保健福祉のまち

弓浜ホスピタウン

- ・介護老人福祉施設ピースポート(社)48-2332
- ・短期入所生活介護ピースポート(社)48-2332
- ・介護老人保健施設弓浜ゆうとぴあ(医)48-2334
- ・短期入所療養介護弓浜ゆうとぴあ(医)48-2334
- ・通所リハビリテーション弓浜ゆうとぴあ(医)48-2334
- ・通所介護弓浜ゆうとぴあ(社)48-2337
- ・通所介護弓浜ゆうとぴあ(認知症対応型)(社)48-2337
(ふくろうの里)
- ・認知症専門通所介護弓浜脳活性クラブ(医)48-2339
(若竹庵)

・訪問介護弓浜真誠会(社)48-2336
 ・米子市弓浜地域包括支援センター 48-2330
 ・ケアプランセンター弓浜真誠会(社)48-2335
 ・ケアハウスリバーサイド(社)48-2630
 〒683-0104 米子市大崎1511番地1 TEL48-2331(代)



在宅福祉のまち

在宅福祉センター 真誠会

- ・富益しあわせデイサービス米子真誠会(社)25-6811
- ・富益しあわせ認知症デイサービス米子真誠会(社)25-6811
(ダンスダンス)
- ・グループホーム青松庵(社)25-6813

〒683-0103 米子市富益町235番地8 TEL25-6811(代)

